



伝 てんづしまい
天津司舞
昭和51年5月4日指定
(甲府市小瀬町)

日本第一号の重要無形民俗文化財に指定されている、日本最古の人形芝居である。その年の豊作を願って舞う田楽芸能の一つ。9体の人形は小瀬町の天津司神社を出発し、下鍛冶屋町の諏訪神社の境内に張られた幕の中に入り、舞を奉納する。人形は等身大で、舞は水上での神々の姿を再現したものといわれる。現在は4月第一日曜日に行われている。

画像提供:甲府市



画像提供:富士吉田市

伝 よしだ ひまつり
吉田の火祭

平成24年3月8日指定(富士吉田市上吉田)

吉田の火祭は北口本宮富士浅間神社とその摂社の諏訪神社の祭りで、江戸時代から富士山信仰の隆盛とともに賑わった祭りとして「甲斐国史」にも記載されている。7月1日の富士山のお山開きに対して、お山仕舞いのお祭りとして8月26日に行われる。巨大な富士山型の神輿が勇壮に渡御し、市内に並べられた大松明が燃やされる。



画像提供:上野原市

伝 むじょうの だいねんぶつ
無生野の大念仏

平成7年12月26日指定(上野原市秋山無生野)

大念仏は人々が一堂に集まって念仏を唱える行事。江戸時代までは各地に伝えられていたが、現在でも完全な形を残しているのは、県下では無生野だけとなっている。この地域では鎌倉時代末期、後醍醐天皇の王子である大塔宮護良親王らの悲運の伝説にちなんで悪霊退散を祈願したものが起源と語られている。



画像提供:富士河口湖町

伝 かわぐち ちご まい
河口の稚児の舞

平成29年3月3日指定
(富士河口湖町河口)

河口浅間神社の毎年7月28日の太々神楽祭に奉納されている。神楽に奉仕するのは、氏子の中の7歳から12歳までの「おちいさん」と呼ばれる女の子。おちいさんは両親が健全なことが絶対条件で、舞を奉納する1週間前からは4足のを食べてはいけないなどの厳粛さがある。

山梨の文化財

長年にわたる人々の生活の中で創り出し、守り伝えられてきた宝物
important intangible cultural assets
and national treasure of Yamanashi

伝 重要無形民俗文化財

国宝 **守**

守

こざくらかわおどしよろい
小桜韋威鎧
かぶと おおそでつき
兜、大袖付

昭和27年11月22日指定
(甲州市塩山 菅田天神社所有)

平安時代の風格を今も伝えるこの鎧は、「楯無鎧」の名で知られ、御旗(甲州市塩山 雲峰寺蔵、県指定文化財)とともに武田家の重宝だったとされる。信玄の時代、鬼門鎮護のため菅田天神社に納められたが、武田氏が滅んだ際、敵の手に渡らないよう向嶽寺の大杉の根元に埋めたものを、徳川家康が掘り出し再び同社に納めたと伝えられる。



守

けんぼんちやくしよくだるます
絹本著色達磨図

昭和28年11月14日指定
(甲州市塩山 向嶽寺所有)

達磨が朱衣に身を包んで岩上に座禅する本図は、その生き生きとした描写や重厚な筆致から、優品としての評価が高い。着賛している蘭溪道隆は、鎌倉建長寺を開山した中国からの渡来僧で、東光寺や永岳寺を開山するなど、本県にも関係がある。13世紀頃の作である。



守

けんぼんちやくしよく
絹本著色
かけいさんすいず
夏景山水図

昭和30年6月22日指定
(身延町 久遠寺所有)

本来四季山水図の一つとして描かれたものと考えられるが、春景図は失われている。京都金地院に残る秋景・冬景図二幅とともに北宋の徽宗皇帝の作とも伝えられる。12世紀初めとも、13世紀初めの作ともいわれるが、足利義満の所蔵印が押されていることから、14世紀には既に日本に伝来していたことが分かる。北宋・南宋時代の山水図を代表する名品である。



守

だいぜんじほんどう
大善寺本堂
つけたり ずし
附 厨子

昭和30年6月22日指定
(甲州市勝沼町 大善寺)

鎌倉時代の密教系本堂の代表的建物で、東日本で最も優れた和様建築ともいわれている。内部の隅柱にある1286(弘安9)年の刻銘から、1270(文



永7)年の火災で焼失した後、鎌倉幕府の援助を受けて再建された、山梨県では最古の建物であることが判明している。

守

せいはいくじぶつでん
清白寺仏殿

昭和30年6月22日指定
(山梨市三ヶ所 清白寺)

この仏殿は、小規模な中世禅宗様仏殿の典型例として知られる。清白寺創建時の1333(正慶2)年の建築と伝えられてきたが、1917(大正6)年の解体修理の際に発見された墨書によって、1415(応永22)年であることが確認された。



と伝えられてきたが、1917(大正6)年の解体修理の際に発見された墨書によって、1415(応永22)年であることが確認された。